

【戦略4】県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

6次産業化や農業と観光の連携等による新たな価値の創出、農産物等のブランド化、国内外への販路拡大により、県産農林水産物の競争力強化や所得向上を目指していく。

(1)～(2) 農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト

【目標指標】

目標指標	現状値	H29目標値	H32目標値
食品製造業等における県産農林水産物の使用割合(重量ベース)	38.3% (H27)	40%	43%
食料品製造業の製造品出荷額等	3,011億円 (H26)	3,900億円	4,500億円
全国の食料品製造業における本県の食料品製造業の製造品出荷額等の割合	1.2% (H26)	1.6%	1.9%

【29年度の取組み】

<これまでの取組み>

○農林漁業者と食品製造事業者等とのマッチングの強化

- ・6次産業化支援機関にコーディネーターを配置し、農林漁業者と食品製造業者等が求める情報を収集し、データベースとして蓄積(随時)
- ・6次産業化の取組みを積極的・効果的に支援するための「6次産業化支援チーム」を各総合支庁に立ち上げ(6月以降、順次)
- ・産地と食品製造業者や、食品製造業者同士のマッチング交流会を開催(11/27)

○地域土産品開発等の推進

- ・食品製造業者が中心となる連携体に取り組む土産品開発に対する助成を実施(採択件数17件)
- ・高校生スイーツコンテストを開催(6月)するとともに、県内菓子店の協力により県知事賞受賞商品のトライアル販売を実施(9月)
- ・訪日外国人旅行者向け土産品開発のための研修会(2回)及び個別相談会(1回)を開催するとともに、土産品開発に対する助成を実施(採択件数3件)



○6次産業化商品等の販路開拓

- ・大手食品卸売業(2社)主催の展示会(6月、7月)に出展した食品製造業者(計6社)に対する支援を実施。
- ・おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会を開催(10/24)



<今後の取組み予定>

○農林漁業者と食品製造事業者等とのマッチングの強化

農林漁業者と食品製造業者等の情報交換・交流によるマッチングの場として、県内2ブロックで地域交流会の開催(1月～2月)

○地域土産品開発等の推進

第3回やまがた土産菓子コンテストの開催(12/2)

○6次産業化商品等の販路開拓

地元小売店や食品卸売業と連携した商談会やフェアの開催

【評価と課題】

○農林漁業者と食品製造事業者等とのマッチングの強化

コーディネーターによる食品製造業者への訪問等により、県産農林水産物等の利用希望についての情報収集が進んでおり、今後、農林漁業者と食品製造業者との交流会の開催などを通じて、マッチング支援を強化することが必要

○地域土産品開発等の推進・6次産業化商品等の販路開拓

県産農林水産物の利用拡大のため、県内菓子・食品製造業による「山形ならではの」の商品開発の支援や、大手食品卸売業と連携した販路開拓の支援を展開しており、具体的利用拡大につながるよう引き続き推進することが必要

【戦略4】県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

6次産業化や農業と観光の連携等による新たな価値の創出、農産物等のブランド化、国内外への販路拡大により、県産農林水産物の競争力強化や所得向上を目指していく。

(2)-② 県産農産物等販路拡大プロジェクト・⑤ 県産農産物等輸出拡大プロジェクト ほか

【目標指標】

目標指標	現状値(H27)	H29目標値	H32目標値
東京都中央卸売市場における県産農産物の取扱金額割合	野菜:1.28% 果実:5.64%	野菜:1.32% 果実:5.70%	野菜:1.40% 果実:5.80%
主要都市の中央卸売市場における県産農産物(野菜・果実)の取扱金額	5,562百万円	5,776百万円	6,100百万円
県産農産物輸出货量	987t	1,000t	1,300t
国別アクションプラン策定数(累計)	0件	3件	8件

【29年度の取組み】

<これまでの取組み>

○首都圏・関西圏以外の主要都市への県産農産物の販路・販売拡大

- ・県産農産物主要都市別販路・販売拡大プロジェクト会議の設置(5月)及び開催(5月、10月)
- ・主要5都市(札幌市、名古屋市、金沢市、広島市、福岡市)へ販路開拓コーディネーターを配置(6月)
- ・主要5都市での統計データ等の情報収集と整理



○県産農産物等の輸出拡大

- ・ヤマト運輸、ANAとの連携により庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系の検証を実施(テスト輸送)(5月)
- ・米国サンフランシスコ日本国総領事館におけるつや姫PRを実施(6月)



- ・マレーシアクアラルンプール、台湾台北市におけるさくらんぼ販売プロモーションを実施(7月)
- ・台湾台北市での宮城県との合同フェアによる、つや姫等県産米販売プロモーションを実施(8月)
- ・米国ハワイ州におけるつや姫等県産品販売プロモーションを実施(11/3、4)



<今後の取組み予定>

○首都圏・関西圏以外の主要都市への県産農産物の販路・販売拡大

- ・主要5都市でのマーケット調査(~3月)
- ・主要5都市の都市別販売戦略(プラン)の策定(3月)

○県産農産物等の輸出拡大

- ・県産米等の業務用への販路拡大に向けた、レストランを活用したフェア開催及び求評調査の実施(ドイツ、12月)
- ・国別アクションプラン(シンガポール、EU)の策定(3月)

【評価と課題】

○首都圏・関西圏以外の主要都市への県産農産物の販路・販売拡大

- ・県産農産物主要都市別販路・販売拡大については、産地の状況を踏まえつつ主要5都市のニーズを把握していくことが必要

○県産農産物等の輸出拡大

- ・庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系の検証を香港向けで実施し、効果的な輸送方法であることを確認できたが、物量の安定確保や輸出検査機器の未整備等の課題があり、本格運用に向けた検討が必要
- ・海外での県産米の業務用向け販路の開拓のため、プロモーションやフェア等を実施し、認知度を高めていくことが必要

【戦略4】県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

6次産業化や農業と観光の連携等による新たな価値の創出、農産物等のブランド化、国内外への販路拡大により、県産農林水産物の競争力強化や所得向上を目指していく。

(3)-② 有機農産物生産拡大・ブランド化プロジェクト

【目標指標】

目標指標	現状値	H29目標値	H32目標値
有機農業の取組面積	696ha(H27)	814ha	990ha

【29年度の取組み】

<これまでの取組み>

○有機農業の生産拡大

- ・熟練有機農業者を「やまがた有機農業の匠」として知事が認定する制度を創設し、19名を認定した(6/14認定交付式)
- ・県内8か所に技術展示ほ(水稻、野菜)を設置し、有機栽培技術を検証
- ・高効率水田用除草機に関する現地セミナーを開催(8/23)



○有機農業の技術開発

- ・農業総合研究センター及び各産地研究室で、えだまめ等野菜の有機栽培技術開発を実施、7月に中間検討会を開催。
- ・農業総合研究センターで、水稻の省力低コスト除草技術の研究開発を実施



○有機農産物の評価向上

- ・有機農産物ブランド化推進専門部会を開催し、学識経験者、生産者、流通・販売関係者等による意見交換を実施(8/4)
- ・「国際オーガニックEXPO2017(8/24~26、横浜市)」に県産有機農産物や加工品を出展し、PRするとともにマッチングを推進(商談成立2件)
- ・消費者交流イベント「やまがたオーガニックフェスタ」の開催を支援(11/5)



<今後の取組み予定>

- 有機農業の生産拡大
 - ・有機農業技術研修会の開催(3月)
- 有機農業の技術開発
 - ・栽培技術開発についての成績検討(2月)と「えだまめ有機栽培マニュアル」作成(3月)
- 有機農産物の評価向上
 - ・第2回有機農産物ブランド化推進専門部会開催(1月)
 - ・有機農業推進フォーラムの開催(3月)

【評価と課題】

○有機農業の生産拡大

- ・「やまがた有機農業の匠」は新規取組者等への技術指導や県の技術展示ほ設置への協力、消費者交流イベントへの参加など、生産拡大に向けた推進役を担っている
- ・有機農業への新規取組者が相談しやすい環境を整える観点から「やまがた有機農業の匠」の活躍場面を増やすことが必要
- ・有機農業の取組みには地域的偏りがあるため、各市町村における推進体制の整備が必要

○有機農業の技術開発

- ・本年度、えだまめの有機栽培技術について、実証結果が得られる見込み
- ・有機農産物の生産拡大を図るため、多様な品目(野菜等)の有機栽培技術開発と体系化が必要

○有機農産物の評価向上

- ・「国際オーガニックEXPO2017」への出展により、販路拡大につながり、県産有機農産物のPRも図られた
- ・有機農産物の生産拡大のためには販路拡大や消費者理解の促進を図る必要があり、生産者と実需者とのマッチングや情報発信、消費者交流をさらに進めることが必要